

鶴岡市下水道事業経営戦略【概要版】 2022-2031

①計画策定の目的

本市では、近年続く人口減少や節水機器の普及に加え、今般の新型コロナウイルス感染症の影響などによる使用料収入の減少や、下水道施設の老朽化による改築更新需要の増加、未普及地域の下水道施設の10年概成に向けた集中的な整備など厳しい経営状況が続いている。

更には、大規模地震や局地的集中豪雨など自然災害への危機管理対策や下水道職員の技術力の低下など、多種多様な課題に直面している。

このような状況のもと、現経営戦略策定後の社会情勢等の変化を踏まえた上で経営基盤強化と財政マネジメントの向上に資するため、戦略の見直しを行うものである。

②鶴岡市下水道事業の経営課題

「鶴岡市下水道事業の現状と課題」及び「将来の事業環境」を基に経営課題を以下のとおり抽出した。

本市下水道事業の経営課題

- 効率的な整備手法による事業費の抑制
- 改築更新事業費の平準化
- 不明水の削減による汚水処理原価の低減
- 適切な施設管理による汚水処理原価の低減
- 施設の最適化による維持管理費の低減
- 安定した使用料収入の確保
- 職員間での技術継承方法の明確化
- 職員減少に対応した経営基盤の強化

③経営の基本方針

下水道事業が抱える経営課題を踏まえ、基本方針を次のように設定する。

【基本方針】 「次世代へつなぐ持続可能な下水道経営」

④経営目標

経営の基本方針実現に向けて経営目標を次のように設定し、計画期間内の指針とする。

経営目標

- 経常収支比率の維持……………経常収支比率 100%以上（経常損失なし）
- 累積欠損金の発生防止……………単年度収支で黒字
- 経費回収率の向上……………使用料の維持管理経費への充当率を上げる
- 一般会計繰入金の削減……………基準外繰入の削減に努める
- 資金残高の確保……………安定した経営活動を行うための資金の確保

⑤ 経営効率化・健全化の取組

経営の効率化、健全化に向けて次のような事業を推進する。

◎ 将来を見据えた効率的・効果的な投資

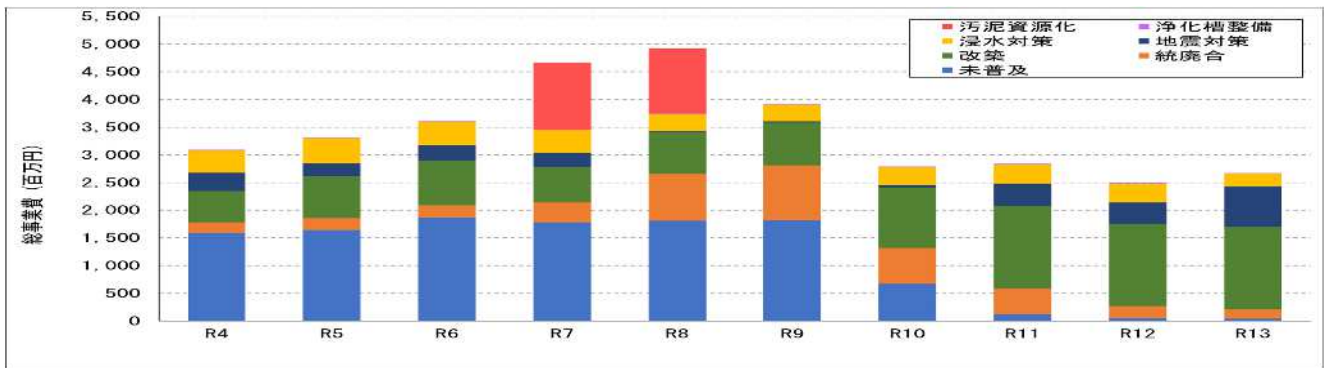
- ・ 未普及対策事業……………10年概成に向けた集中的な整備や浄化槽整備による使用料収入の増加
- ・ 統廃合事業……………汚水処理施設などの統廃合による維持管理費や改築更新費用の抑制
- ・ 改築更新事業……………維持管理情報を踏まえた効率的な改築更新による投資の平準化
- ・ 地震、津波対策事業……………重要な施設への優先的な対策による下水道施設の機能維持

◎ 経営基盤の強化

- ・ 下水道使用料の適正化……………定期的な使用料算定と適正水準への使用料改定による健全経営の推進
- ・ バイオガス発電事業……………消化ガス販売による安定的な収益の確保
- ・ 包括的民間委託……………包括的民間委託による経費削減及び事務負担の軽減

⑥ 投資計画

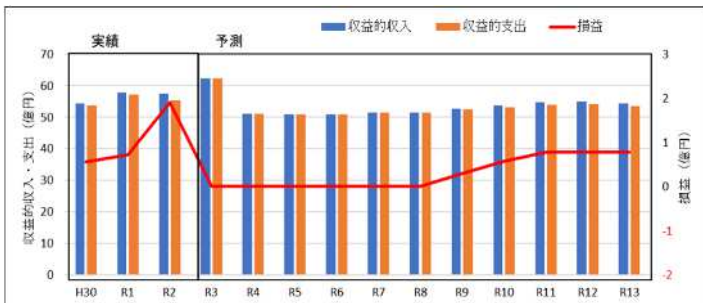
想定される事業を整理した結果、計画期間における事業費は25～49億円で推移する。



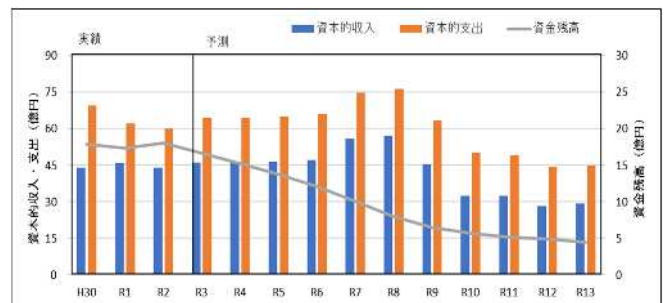
⑦ 経営改善時方策を踏まえた財政収支

今回の検討により経営状況の悪化が見込まれたため、計画期間内に使用料改定を行った場合の財政収支を検討した。今後は定期的に下水道使用料の算定を行い適切な時期での使用料改定を検討することで、基本方針である「次世代へつなぐ持続可能な下水道経営」を目指す。

1. 収益的収支



2. 資本的収支



3. 経営指標

	経常収支比率	累積欠損金比率	経費回収率	一般会計繰入金削減率 (対令和2年度比)	資金残高
現状 R2	103.2%	0%	98.6%	0%	約18億円
検討結果 R13	101.4%	0%	102.7%	-34.7%	4.9億円
目標 R13	100%以上	0%	100%以上	-30%	4億円